

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご利用ください！
動画はこちら→<https://youtu.be/7nTMWd9eV6k>



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

特定非営利活動法人 地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット 東京都大田区

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足などにより、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

スポーツを通じた人づくり・街づくりをめざし設立

平成14(2002)年東京都大田区の地で、幅広く独自のスポーツが行える環境とその運営を行い、スポーツという美しいものを通じて、生活の充実、素晴らしい人間性の形成、多くの交流が生まれる場づくりと、スポーツの振興と文武両道およびスポーツを軸にした街づくりや地域振興をめざし発足しました。

令和7(2025)年3月末現在の会員数は863名、18種目66教室を展開し、延べ教室実施回数は年間2,268回、延べ参加人数は20,340名です。

【主な教室事業】

バスケットボール教室(大田区内8会場)※小中学生から高校生以上の教室

チアリーディング教室(大田区内4会場、760教室)

リズムダンス教室(大田区内3会場、432教室)

ラグビー教室(大田区内8会場、189教室)

そのほか、かけっこ教室、機能改善体操教室、ヨガ、学習支援教室などを手がけています。



バスケットボール教室 (U15蒲田高校教室)



チアリーディング教室 (雪谷教室)



ラグビー教室 (大森教室東京ガス大森グラウンド)

事務局は大田区西馬込の事務所を拠点に、6名の社員と、羽田地区のヤマトフォーラム(体育館)に10名程度のパートアルバイトを配置しています。

【組織運営】

①総合型地域スポーツクラブの教室事業

社員4名が専任しています。社員の多くは、教室事業の講師も兼任しており、当法人の事務業務に加え、各自の種目の講師としても活躍しています。

②ヤマトフォーラム(体育館)の指定管理業務

③学校部活動指導員派遣業務と関連する管理業務

令和6(2024)年度より、大田区教育委員会から委託されています。

ピボットフットは20年を超える大田区内でのスポーツ教室の実施実績と、桑田健秀理事長の長年のスポーツ行政への関わりから、ジュニア世代のスポーツ環境の整備と、地域のなかで育まれ成長していく環境整備のため、尽力してまいりました。

昨年度以来の学校部活動指導員派遣業務において、地域展開に向けた推進と都市型ならではの地域課題解決のため、地域のステークホルダーと連携しています。

2

取り組み内容

大田区のモデル事業として派遣をスタート 教育委員会管理のもと、指導員は教員と同等の立場で指導を行う

大田区立の中学校は28校あり、約11,000名の生徒が在籍しています。部活動はおおよそ280部が活動しており、令和6(2024)年度より、モデル事業として指導員派遣をスタートしました。ピボットフットからは、令和7(2025)年度に7校27部11種目に指導員を派遣しています。

指導員は、平日は15:30から18:30と休日は4時間程度、週20時間の部活動の指導を行っています。また、校外で行われる試合への引率や監督も担当しています。学校部活動を教員同等の立場で指導を行うため、文化祭や運動会、生徒会行事など学校業務内容を理解して学校の意向に沿った形での部活動を行い、大田区教育委員会の管理下で進めています。

部活動指導員の謝金や、管理部門への予算は、すべて教育委員会の予算によりまかなわれています。指導員30名のうち、8割が地元出身者であり、競技団体出身のキャリア指導者です。特にバスケットボールは、大田区に男女のプロチームがあり指導員の連携を行っています。

「やってみたい」に応える指導、制約のある環境への対応など 部活動指導員に求められる多角的な役割とサポート体制

指導者の競技スキルはもちろんのこと、中学生世代とのつながりが重要です。部員の大多数が「競技をやってみたかった」「友人と一緒に部活をやりたい」との動機から入部しており、新入部員は、毎年5月上旬の本入部ののちに確定するため、指導者の配置数にも予測が必要です。

学校部活動であるため、活動場所はグラウンドや体育館など学校施設で行います。学校部活動は生徒の「やってみたい」に応える場として有効であり、競技者の入り口として重要な活動であることを再認識しています。

また、学校部活動は、限られた時間帯に多種目が混在して活動するため、良質な環境の提供が課題となっています。一例として、ある学校では体育館を、バドミントン部、男女のバスケットボール部が共有している日もあり、バスケットボール部は体育館の4分の1ほどの狭いところで練習しています。安全管理に注意を払うことはもちろんのこと、練習内容を工夫しながらの指導に当たっています。

大田区は地域によって特色があり、全校生徒が200名の学校や、1学年の生徒数が230名の学校もあり、部員の数もさまざまです。一部の競技では学校単位で人数がそろわず、他校との合同練習、合同チームを必要としています。合同チームの場合、平日は少人数で自校にて活動し、休日は拠点校に集合して練習を行っています。

部員の引率や、大会参加時の監督の問題など、学校間で調整することも多く、単校だけで解決しない問題にも取り組んでいます。指導者として競技の技術だけを指導することではなく、スポーツを通じたルール、マナー、エチケット、スポーツマンシップの指導など、生活面に及ぶ指導も求められます。そのため、指導員を孤立させない管理組織を設置して学校・保護者との円滑な連携と活動体制を構築しています。

3

部活動指導における組織的な課題解決アプローチと実践事例

部活動指導員派遣業務において、組織で課題解決する体制をとっています。

各学校の部活動の様子を定期的に視察するため、地元出身のスタッフに「巡回管理者」をお願いしています。巡回者は、部活指導員の指導状況の確認や、学校や保護者とのコミュニケーションを行い、指導員へフィードバックしています。そのなかでいくつかの事例がありましたので、ご紹介させていただきます。

選手の食生活に着目し、「栄養学講座」開催で体力・技術向上を実現

部員の体力の強化について、女子バスケットボール部の指導員は、生徒の指導に当たり、腹痛や生理痛での欠席や見学、体力の低下について、生徒の摂取する「食事の量」について疑問に思いました。学校での「食育」などで栄養管理については学習しているものの、夜型の生活習慣や、スタイルを気にする世代であることから、アスリートとしては一度の食事量が少ないことに気づきました。ピボットフットとしては、組織的に対応するため、「ジュニアアスリートの栄養学講座」と題し、学校長に企画提案、管理栄養士をお願いして、体育館競技の部員と保護者にご出席いただき、講座を開きました。予想した通り、部員の反応は良く、「一日にこんなに量を食べていいんだ!」と驚きの反応でした。食事の講習4カ月後には、女子バスケットボール部の選手は体力も向上し、学校内のマラソン大会でも上位を占める結果となり、体力の向上は、練習の質の向上にもつながり、技術面の成長にも好影響を与えました。



令和6年10月に開催した学校部活動ジュニアアスリートの栄養学講座は、生徒、保護者150名が参加した

生徒の自主性が生んだ、保護者との練習試合という新たな交流

また、ある学校では、PTAのママさんバレーボールのチームが子どもたちの練習に加わり練習試合も行いました。そのきっかけは、指導員が生徒による自主的な部活の運営を進めていくなかで、保護者が、子どもが毎回楽しそうに部活動の話をする様子を聞いたり、練習試合を見学したことで、「一緒にやりたい」という声が上がったそうです。

学校部活動は、地域コミュニティの「核」となる存在です。生徒や先生、指導員だけで行うものではなく、地域の保護者の協力や参加、地域のステークホルダーの協力が必要です。事務局としては、地域との関わり方をブレイクダウンして、丁寧にゆるやかに展開していくことをめざしています。

4

いつでも、だれでも、だれとでも。 都市型モデルとして地域と共に創るスポーツの未来

学校部活動を起点に、ジュニア世代のスポーツ環境と地域の関わりについて緒についたばかりです。都市型モデルの先駆けとして、この事業の成功のために、すべてのステークホルダーと連携していきます。

「スポーツ活動の場」として、大田区には28校の公立中学校と59校の公立小学校があり、放課後の学校施設を有効に活用するため、利用状況の把握と、地域の利用団体との連携、総合型地域スポーツクラブが本来持つ「多世代・多様目」交流の場を進めていきたいと思います。

また、令和7(2025)年度からは、学校開放事業の運営と調整業務のモデル事業も受託して、中学校部活動と関連した施設の有効活用と地域連携をめざします。

学校部活動の地域展開については、長年の課題でありました。スポットで指導員を派遣することとは以前にもありましたが、学校内で運営を行うことの難しさを痛感しています。

スポーツクラブからのアプローチだけではあまり及ばなかった点もあります。中学生世代がスポーツに興味を持ってきて体験したいという純粋な気持ちは大切にしていかなければいけないと思います。いつでも、だれでも、だれとでも、スポーツを通じてつながり、共感し、高め合うことのできる環境整備に、尽力してまいります。

特定非営利活動法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット 副理事長 細貝 充

クラブプロフィール

設立年月日 平成14(2002)年12月16日(平成14年12月16日法人登記)

所在地 東京都大田区中馬込1-1-17 504

運営 会員数:863名(令和7年3月現在) 予算規模:163,000千円(令和6年度)

特徴

- ・「地元根差した、通いやすい教室」 職員は地元出身／区内施設で66教室を展開
- ・「やってみたくなる教室の提供」 幼児のチアリーダー教室／バスケットボール教室
- ・「コミュニティ重視の教室」 機能改善、ヨガ教室は生徒との交流を重視
- ・「地元愛されるクラブ」 大田区内のイベント出演、年間90回超
- ・区内に点在する、スポーツ関連団体をリエゾンしハブの役目を担うクラブ
- ・大田区の産業、文化、観光とも深くつながりを持つクラブ

連絡先 〒143-0026 東京都大田区西馬込2-31-3-103

TEL:03-3776-5113 FAX:03-6869-9436

HP:<https://p-foot.jp/>

E-mail:contct@p-foot.jp

